

2014年3月期 決算説明会



GSユアサ所有 100年前の電気自動車「ゼットハイ」

2014年5月20日

株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション

I . 2014年3月期決算状況

1. 業績の概要	P.03
2. 売上高・利益	P.04
3. セグメント別業績	P.06
4. 貸借対照表	P.12
5. 設備投資・減価償却費・研究開発費	P.13
6. キャッシュ・フロー計算書	P.14
7. ファイナンス	P.15

II . 2015年3月期業績予想

1. 経営の基本方針と重点課題	P.17
2. 売上高・利益	P.18
3. セグメント別業績	P.19
4. 設備投資・減価償却費・研究開発費	P.20
5. セグメント別事業課題	P.21

経営環境

国内経済は、財政および金融政策による円安・株高基調が続き、企業収益の改善や、消費税率引き上げを控えた駆け込み需要などによって個人消費が増加するなど回復傾向となった。

世界経済は、米国では堅調に推移し、欧州でもドイツなど一部に回復の兆しが見られた。また中国でも前年並みの成長率で推移するなど、全体的には緩やかな回復基調で推移した。

業績の概要

国内で車載用リチウムイオン電池や電源装置の販売が増加、また第2四半期よりタイのグループ会社を連結子会社化したことや為替の影響により、売上高、営業利益、経常利益で過去最高となった。これに伴い、当期純利益はリチウムイオン電池事業におけるリコール関連損失を計上したものの、大幅な増益となった。

2. 売上高・利益

(億円)

	2012年度	2013年度	増減 (前期比)
売上高	2,745	3,480 <small>過去最高</small>	+735 (+26.8%)
営業利益	98	182 <small>過去最高</small>	+84 (+86.2%)
(営業利益率)	3.6%	5.2%	+1.6P
経常利益	123	203 <small>過去最高</small>	+80 (+65.9%)
特別利益	62	※1 33	-29
特別損失	102	※2 78	-24
当期純利益	58	100	+42 (+73.1%)
(当期純利益率)	2.1%	2.9%	+0.8P
配当	6円/株	8円/株	+2円/株

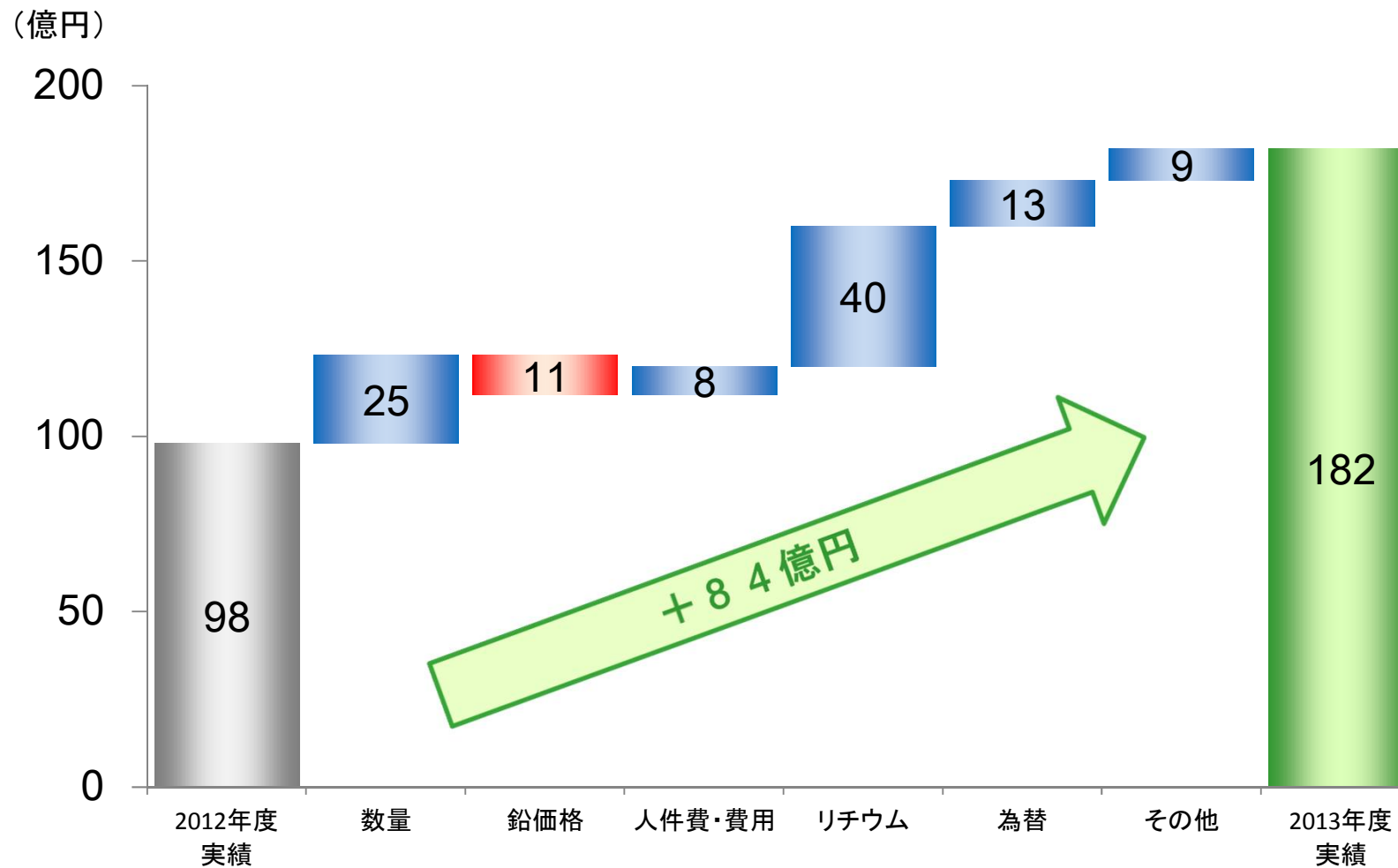
※1 特別利益

 投資有価証券売却益 15億円
 退職給付信託設定益 14億円

※2 特別損失

リコール関連損失 67億円

営業利益増減要因



3. セグメント別業績

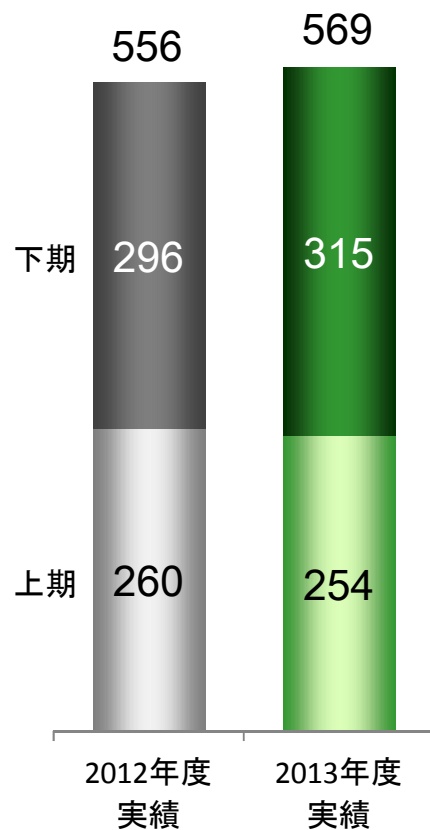
(億円)

	2012年度		2013年度		増減		第三次中期経営計画 2013年度(当初計画)	
	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率)	売上高	営業利益 (利益率:%)
国内自動車電池	556	39 (7.0)	569	33 (5.8)	+13	-6 (-1.2P)	590	40 (6.8)
国内産業電池電源	724	108 (14.9)	792	122 (15.4)	+68	+14 (+0.5P)	800	110 (13.8)
海外	1,199	64 (5.3)	1,643	90 (5.5)	+444	+26 (+0.2P)	1,660	85 (5.1)
リチウムイオン電池	106	-112 (-105.7)	325	-72 (-22.2)	+219	+40 (+83.5P)	280	-75 (-26.8)
その他	160	-1 (-0.6)	151	9 (6.0)	-9	+10 (+6.6P)	170	0 (0.0)
合計	2,745	98 (3.6)	3,480	182 (5.2)	+735	+84 (+1.6P)	3,500	160 (4.6)

国内自動車電池

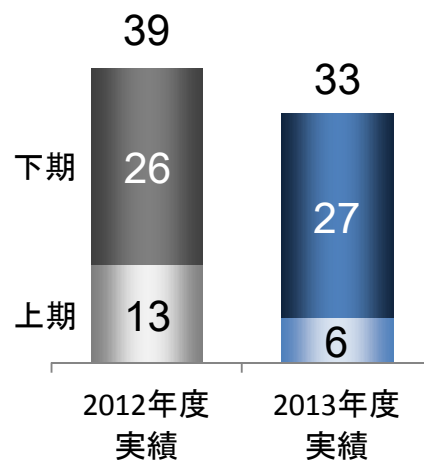
売上高

(億円)



営業利益

(億円)



2013年度商況

- 新車向けアイドリングストップ車用鉛蓄電池が好調
- 補修は総需要減少したが販売シェアアップ
- 自動車関連部品(カーナビ等)の販売が減少

増減益要因

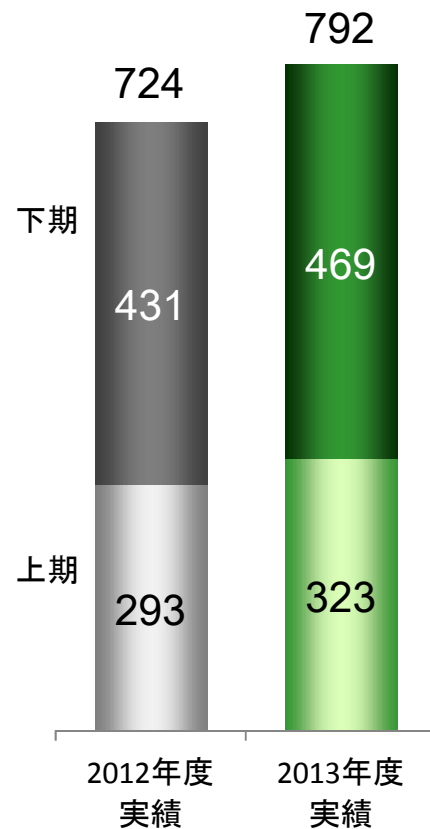
(億円)

数量	+1
鉛価格	-12
人件費・費用等	+5

国内産業電池電源

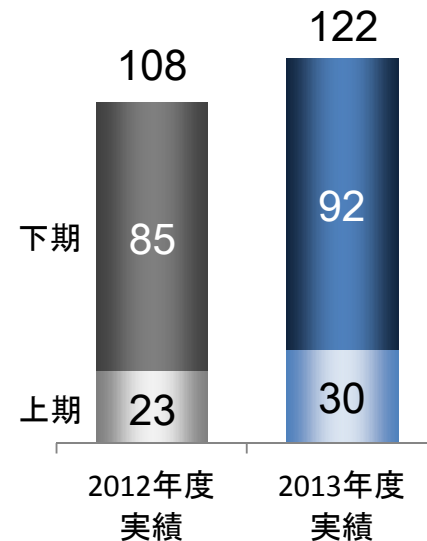
売上高

(億円)



営業利益

(億円)



2013年度商況

- 太陽光発電用パワーコンディショナの販売好調
- フォークリフト用鉛蓄電池の販売好調

増減益要因

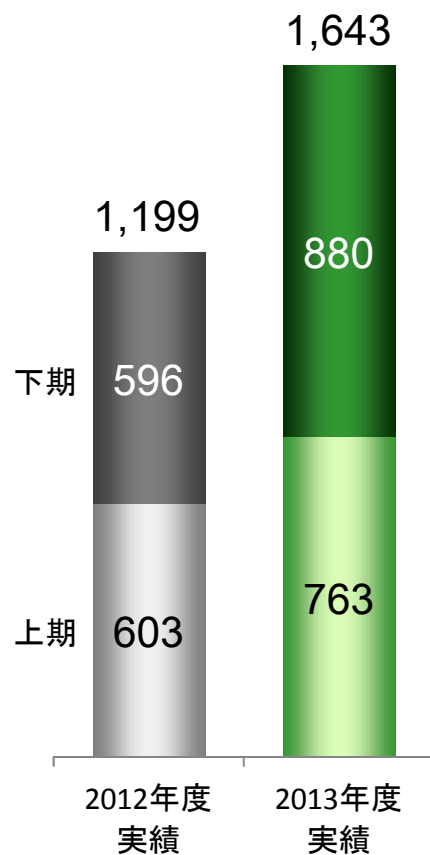
(億円)

数量	+8
売価	+2
人件費・費用等	+4

海外

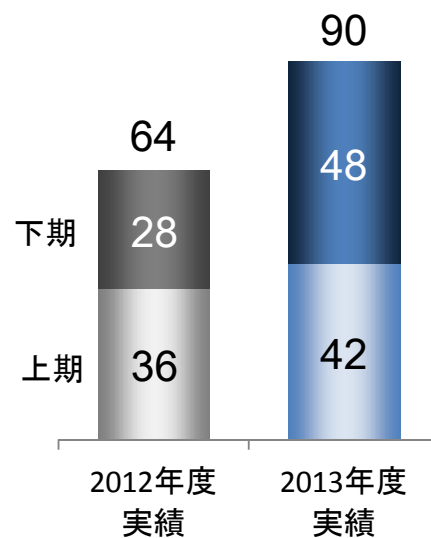
売上高

(億円)



営業利益

(億円)



2013年度商況

- 第2四半期よりタイのグループ会社を連結子会社化
- 為替影響により増収増益

増減益要因

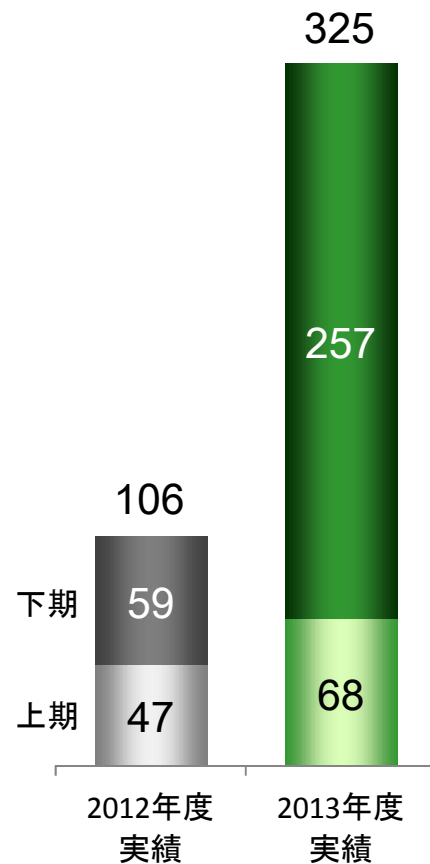
(億円)

数量	+17
鉛価格	-1
人件費・費用	-2
為替	+13

リチウムイオン電池

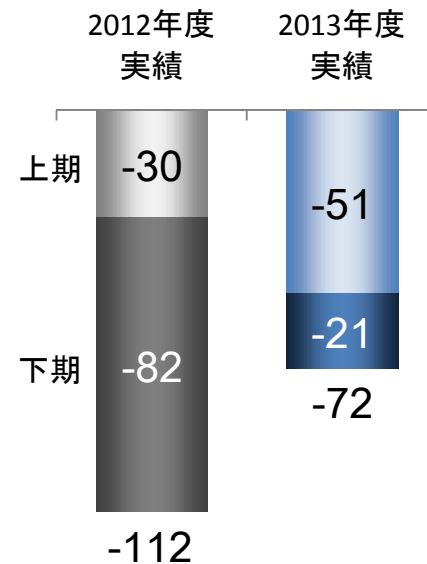
売上高

(億円)



営業利益

(億円)



2013年度商況

- [ブルーエナジー]
ハイブリッド車向け採用車種拡大により販売増加
- [リチウムエナジージャパン]
品質問題対応完了以降、プラグインハイブリッド車向け販売増加

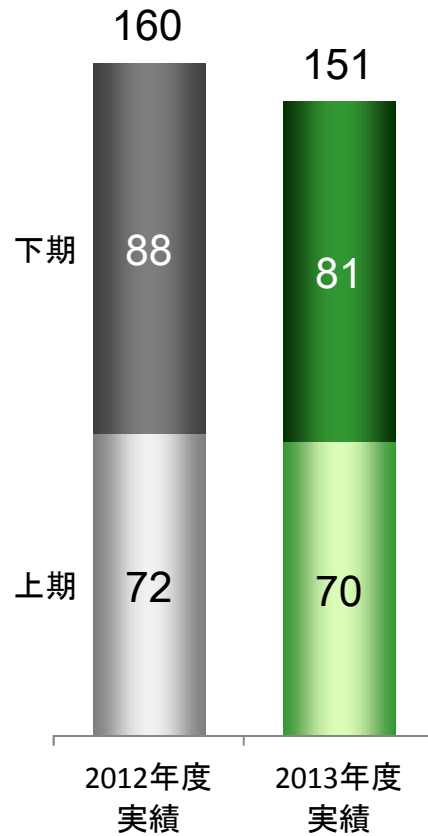
増減益要因

販売増加により利益改善

その他

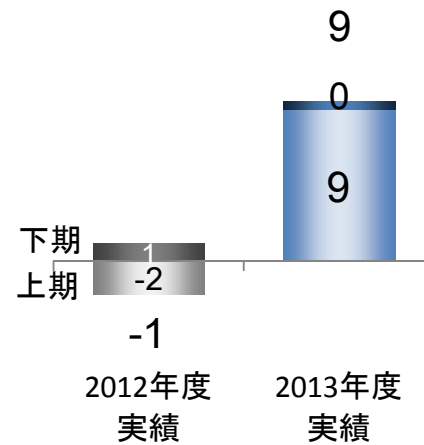
売上高

(億円)



営業利益

(億円)



増減益要因

照明、膜事業の収益改善

特殊電池の販売増加

全社費用削減

4. 貸借対照表

(億円)

	2013/3末	2014/3末	増減額		2013/3末	2014/3末	増減額
流動資産	1,287	1,682	+395	負債	1,492	1,858	+366
・現金及び預金			+65	・支払手形及び買掛金			+156
・受取手形及び売掛金			+142	リチウムイオン電池増産に伴う材料仕入増			
リチウムイオン電池売上増加				・借入金及びCP			-165
・有価証券			+56	・未払法人税			+34
MMFによる資金運用				・転換社債			+250
・棚卸資産			+135				
リチウムイオン電池増産							
固定資産	1,617	1,722	+105	純資産	1,412	1,547	+135
・有形固定資産			+141	・利益剰余金			+75
・投資有価証券			-18	・為替換算調整勘定			+94
・前払年金費用			-31	円安による海外投資の含み益増			
為替の影響			+181	・退職給付に係る調整累計額			-26
サイアムGSの連結子会社化			+87				
資産	2,904	3,405	+501	負債・純資産	2,904	3,405	+501

	2013/3末	2014/3末
自己資本比率	43.2%	41.0%
ROE(自己資本利益率)	4.8%	7.5%

退職給付債務 未認識項目のオンバランス化
による自己資本比率への影響(会計方針の変更)

-0.8%

5. 設備投資・減価償却費・研究開発費

(億円)

	2012年度	2013年度
設備投資額	332	186
リチウムイオン電池事業	249	69
海外事業	41	57
国内既存事業、その他	42	60
減価償却費	133	129
内、リチウムイオン電池	60	50
研究開発費	62	65
(売上高研究開発費率)	(2.3%)	(1.9%)

6. キャッシュ・フロー計算書

(億円)

営業C/F 197

・税金等調整前利益	159
・減価償却費	134
・売上債権の増加	-83
・たな卸資産の増加	-61
・仕入債務の増加	+107
・法人税等の支払	-62

投資C/F -98

・有形固定資産取得	-152
・保有株式の売却等	30
・サイアムGS現預金	33

財務C/F 6

・借入金の減少	-198
・ユーロ円CB発行	250
・配当金の支払	-25

現金および現金同等物の残高

期首	112	期末	234
----	-----	----	-----

フリーC/F ※1 99**キャッシュ・フロー対有利子負債比率(年) ※2 4.2****ポイント**

- 売上債権やたな卸資産の増加があったが、営業C/Fは200億円水準を確保できた。
- リチウムイオン電池への投資がピークアウトしてフリーC/Fが増加したため、キャッシュの期末残高は122億円増加した。
- ユーロ円CB発行による収入を、主として借入金の返済に充当した。

※1: 営業活動によるC/Fと投資活動によるC/Fの合計 ※2: 有利子負債(リース債務含む) / 営業活動キャッシュ・フロー

2019年満期ユーロ円建転換社債型新株予約権付社債の発行

(2014年2月25日発表)

発行総額	250億円
転換価額	851円
満期償還期日	2019年3月13日
社債の利率	0%
潜在株式数	約29.4百万株
背景	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 第三次中期経営計画の重要戦略課題を確実に遂行するための長期性資金確保 ➤ 資本増強による財務基盤の安定化 ➤ 海外投資家層への当社グループ認知度向上
資金使途	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 海外事業強化のための土地取得及び設備投資資金(約49億円) ➤ 国内既存事業における設備投資資金(約35億円) ➤ リチウムイオン電池事業における設備投資及び欧州新会社 Lithium Energy and Powerへの増資資金(約16億円) ➤ 有利子負債の返済資金(約150億円)

I . 2014年3月期決算状況

1. 業績の概要	P.03
2. 売上高・利益	P.04
3. セグメント別業績	P.06
4. 貸借対照表	P.12
5. 設備投資・減価償却費・研究開発費	P.13
6. キャッシュ・フロー計算書	P.14
7. ファイナンス	P.15

II . 2015年3月期業績予想

1. 経営の基本方針と重点課題	P.17
2. 売上高・利益	P.18
3. セグメント別業績	P.19
4. 設備投資・減価償却費・研究開発費	P.20
5. セグメント別事業課題	P.21

1. 経営の基本方針と重点課題

経営の基本方針

- 品質重視を徹底し、お客様との信頼関係を高める“ものづくり”を実行
- 自動車電池・産業電池電源・海外事業の事業領域と事業規模の拡大
- リチウムイオン電池事業の自立・安定化

重点課題

国内自動車電池

エコカー向け補修需要の取込みと販路活性化によるシェアアップ

国内産業電池電源

既存分野における収益力強化と事業領域の拡大

海外

中国、アセアン市場での事業拡大と収益力アップ

リチウムイオン電池

品質を重視し、事業の健全化と早期黒字化を図る

2. 売上高・利益

(億円)

	2013年度 実績	2014年度 計画	増減	第三次中期計画 (2014年度)	
売上高	3,480	3,800	+320	4,000	
営業利益	182	250	+68	280	
(営業利益率)	5.2%	6.6%	+1.4P	7.0%	
経常利益	203	260	+57	—	
当期純利益	100	130	+30	180	
(当期純利益率)	2.9%	3.4%	+0.5P	4.5%	
配当	8円/株	10円/株	+2円/株	—	
前提条件	国内 鉛建値	26.98万円/t	28万円/t	—	25万円/t
	LME	2,142US\$/t	2,200US\$/t	—	2,300US\$/t
	為替	97.99円/US\$	100円/US\$	—	90円/US\$

3. セグメント別業績

(億円)

	2013年度		2014年度		増減		第三次中期経営計画 (2014年度)	
	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率)	売上高	営業利益 (利益率:%)
国内自動車電池	569	33 (5.8)	520	30 (5.8)	-49	-3 (-0.0P)	610	50 (8.2)
国内産業電池電源	792	122 (15.4)	860	125 (14.5)	+68	+3 (-0.9P)	820	120 (14.6)
海外	1,643	90 (5.5)	1,810	110 (6.1)	+167	+20 (+0.6P)	1,900	115 (6.1)
リチウムイオン電池	325	-72 (-22.2)	520	-30 (-5.8)	+195	+42 (+16.4P)	500	-10 (-2.0)
その他	151	9 (6.0)	90	15 (16.7)	-61	+6 (+10.7P)	170	5 (2.9)
合計	3,480	182 (5.2)	3,800	250 (6.6)	+320	+68 (+1.4P)	4,000	280 (7.0)

4. 設備投資・減価償却費・研究開発費

(億円)

	2013年度	2014年度	増減
設備投資額	186	170	-16
リチウムイオン電池事業	69	30	-39
海外事業	57	60	+3
国内既存事業、その他	60	80	+20
減価償却費	129	140	+11
内、リチウムイオン電池	50	50	+0
研究開発費	65	73	+8
(売上高研究開発費率)	(1.9%)	(1.9%)	(+0.0P)

5. セグメント別事業課題

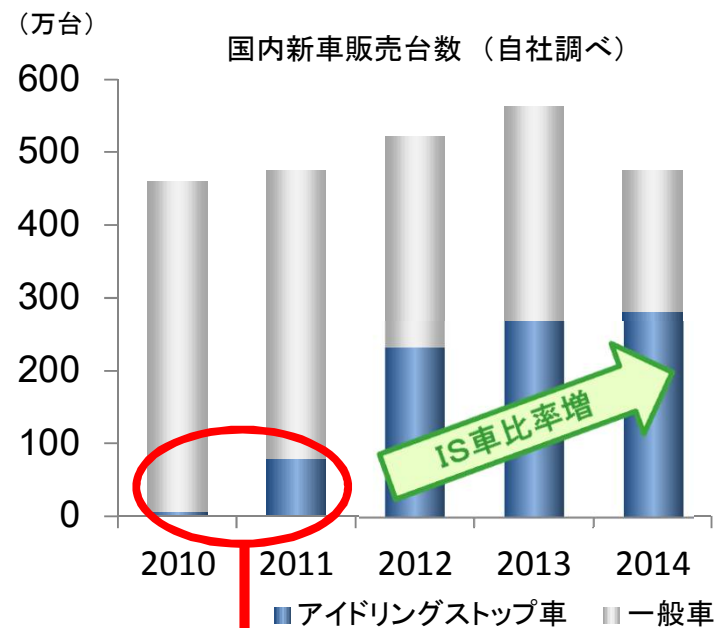
国内自動車電池

➤ エコカー向けバッテリー拡販によるシェアアップ

《2015年度 目標》

販売個数 **900万個**

シェア **40%**



補修需要獲得

➤ 補修用蓄電池の価格改定

値上げ率目標 10% (5月1日出荷分より)



5. セグメント別事業課題

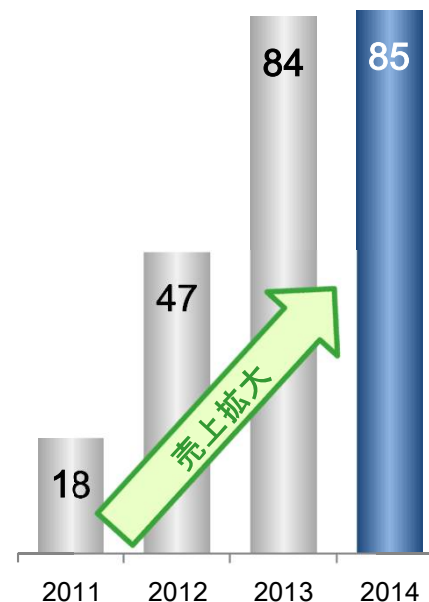
国内産業電池電源

➤ パワーコンディショナ売上拡大

《2015年度 目標》
売上高 **85**億円

2013年度 2年前倒しで目標達成
2014年度 前年水準を維持

パワーコンディショナ売上高 (億円)



➤ メガソーラー建設 (第二弾)

- ✓ 群馬事業所内に新規建設 (2014年度)



GSユアサ 群馬事業所(伊勢崎市)



【第一弾】いわきユアサ(いわき市)
2013年6月稼働

5. セグメント別事業課題

国内産業電池電源

➤ 産業用リチウムイオン電池のマーケット拡大

電力会社の系統安定用途
大規模蓄電システム引合増加



鉄道

産業用

蓄電池駆動電車
営業運転を開始

- JR東日本 ACCUM 「蓄電池駆動電車」
- 東武鉄道 上福岡き電区分所 「回生電力貯蔵装置」
- 近畿車輛 Smart BEST 「自己充電型バッテリー電車」



電力貯蔵

九州電力 芦辺変電所
「周波数変動抑制用蓄電システム」

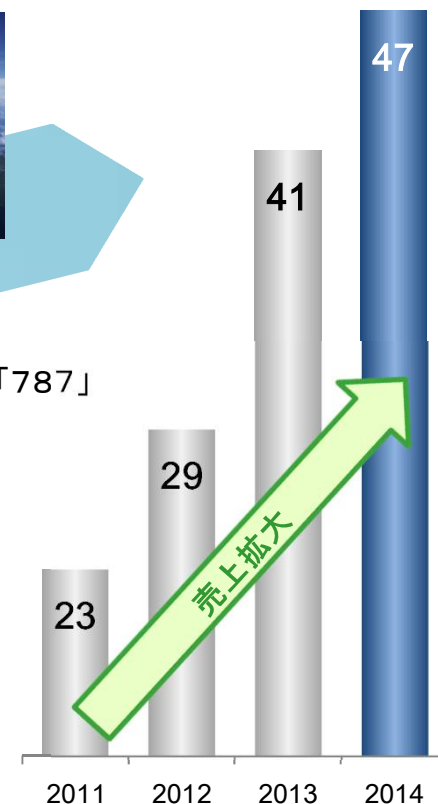
チリ国 コクラン石炭火力発電所
「運転予備用蓄電池」



航空機

ボーイング「787」

産業用・特殊用リチウムイオン電池
売上高 (億円)



その他

➤ 特殊用リチウムイオン電池のマーケット拡大



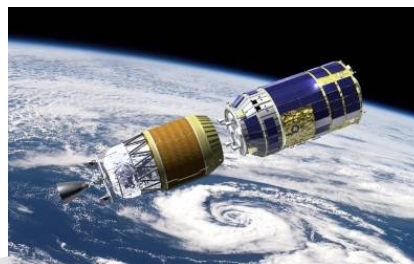
ロケット用リチウムイオン電池



©JAXA

特殊用

H-II A/Bロケット



©JAXA

宇宙ステーション補給機
「こうのとりのり」



©NASA

国際宇宙ステーション



宇宙・衛星用リチウムイオン電池

5. セグメント別事業課題

海外

➤ 各地域における売上高伸率(前年比)

	アジア	欧州	北米	他	合計
2013年度実績	+53%	+32%	+19%	+17%	+37%
2014年度予算	+13%	+4%	+0%	+2%	+10%

➤ 中国における自動車電池生産の拡大

《2015年度 目標》

生産能力 **950**万個

天津: 土地を取得して建設開始
(2014年度)

- ✓ 天津拠点における新工場建設
- ✓ 順徳拠点におけるライン増設

➤ ベトナムにおけるオートバイ用電池生産の拡大

《2015年度 目標》

生産能力 **900**万個

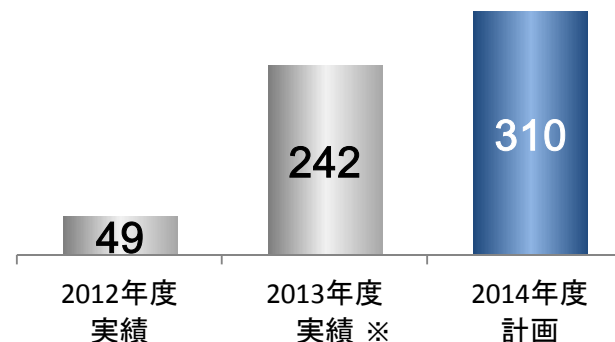
1ライン増設し、量産開始 (2013年度)
2ライン増設し、量産開始 (2014年度)

海外

➤ タイにおける経営基盤の強化

- ✓ サイアムGSグループを連結子会社化
(2013年度第2四半期より)
- ✓ GS Yuasa Asia Technical Center 設立
(2014年1月6日)

タイ(4拠点)の連結売上高(億円)



※:サイアムGSグループの連結売上高は9ヶ月分

➤ インドネシアにおける増産対応

《生産能力》

	2013年度実績	2014年度計画
4輪	850万個	1,000万個
2輪	2,600万個	2,900万個

PTGSジャワ島中部 4輪新工場の量産開始
(2014年度)

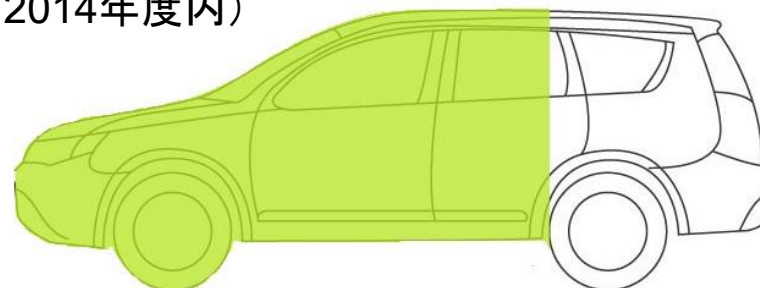
PTGS、ユアサインドネシアで2輪増産予定

アセアン市場での事業拡大

リチウムイオン電池

➤ リチウムエナジー ジャパン (LEJ)

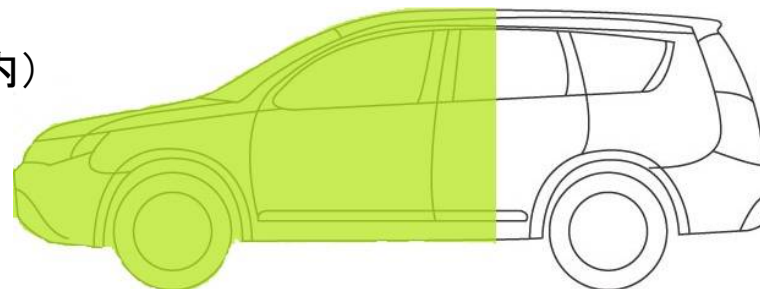
- ✓ 栗東第二工場 新ライン量産開始 (2014年度内)
- ✓ 既存ラインの生産能力増強



LEJ 2014年度稼働率(予定)

➤ ブルーエナジー (BEC)

- ✓ 2013年度下半期黒字化実現、2014年度通期黒字化目指す
- ✓ 新ライン本格量産開始 (2014年度内)



BEC 2014年度稼働率(予定)

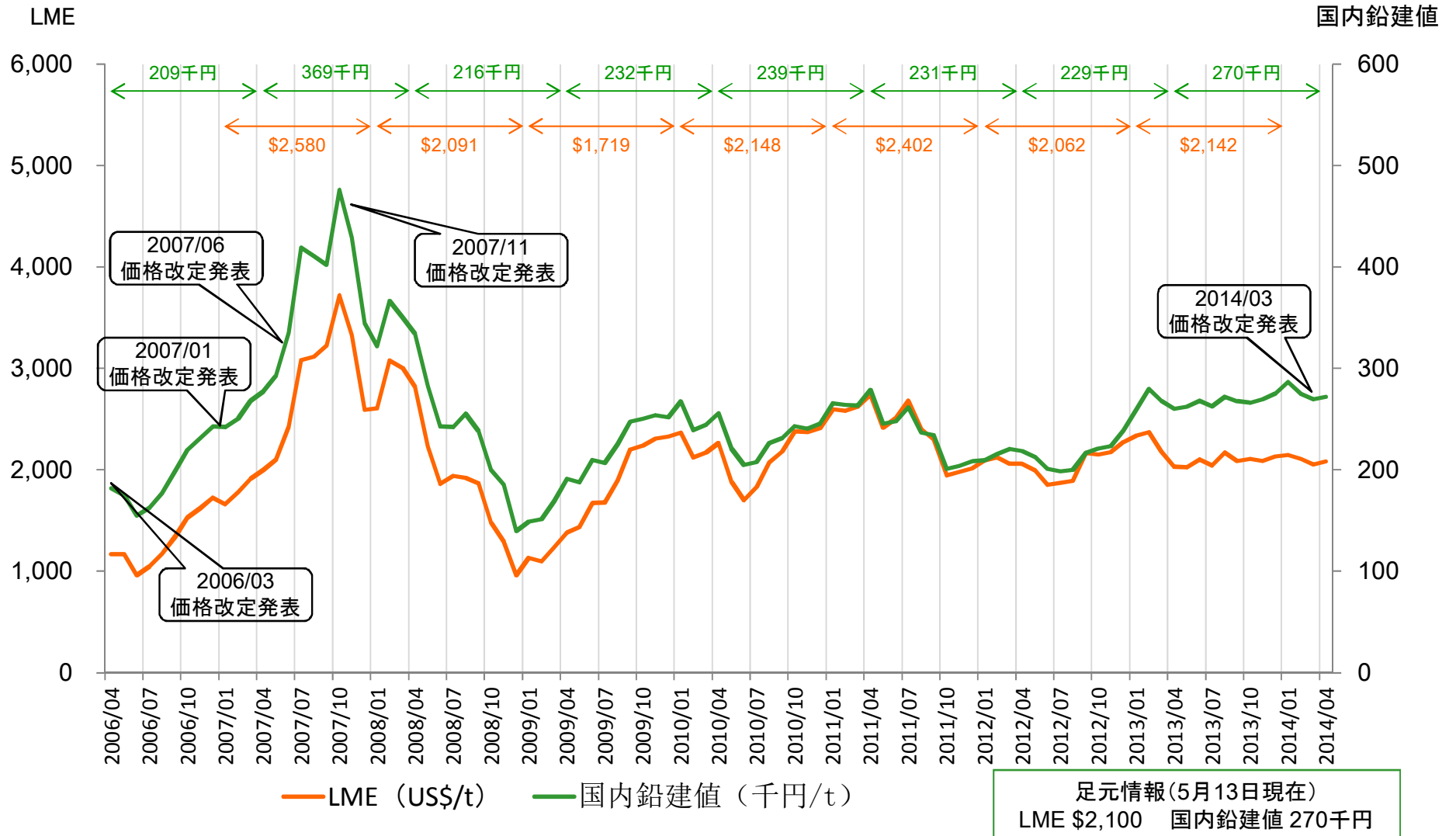
本資料は、当社グループの業績等についての一般的な情報提供を目的とするものです。本書に含まれる予測、予想、計画その他の将来情報は、当社において利用可能な情報に基づく現時点における当社の認識又は判断に基づくものであり、実際の結果はこれらの情報と大きく異なることがあります。また、当社は、本資料に記載された情報に変更又は更新があった場合にも、その内容を提供又は開示する義務を負うものではありません。



連絡先

株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション
コーポレート室(広報) 中野 宏治 ・ 大道 由加 ・ 柿島 辰年
Tel : 075-312-1214
<http://www.gs-yuasa.com/jp>

原材料価格の推移



有利子負債、D/Eレシオ推移

